

# ICTユニットの概要

- 「ICTユニット」は災害時に被災地へ搬入して迅速に通信ネットワークを応急復旧させることが可能な通信設備。
- 東日本大震災での教訓を踏まえて、総務省がNTT等に委託して研究開発を実施(H23~25年度)し、H26年11月に実用化。
- 被災地における必要な通信手段の確保及び支援のため、自治体等からの要請に応じて、貸し出しを実施。

## <機器構成>

**バッテリー(2本)**  
(本体、Wi-Fi用)



(容量: 24,000mAh)  
(重量: 約650g)

**ユニット本体**  
(IP電話用構内交換機、  
情報処理サーバ)



(重量: 約500g)

**Wi-Fi アクセス  
ポイント**

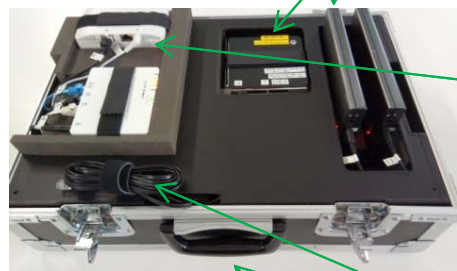


(重量: 約100g)

**ゲートウェイ**  
(外線と接続用)



(重量: 約500g)

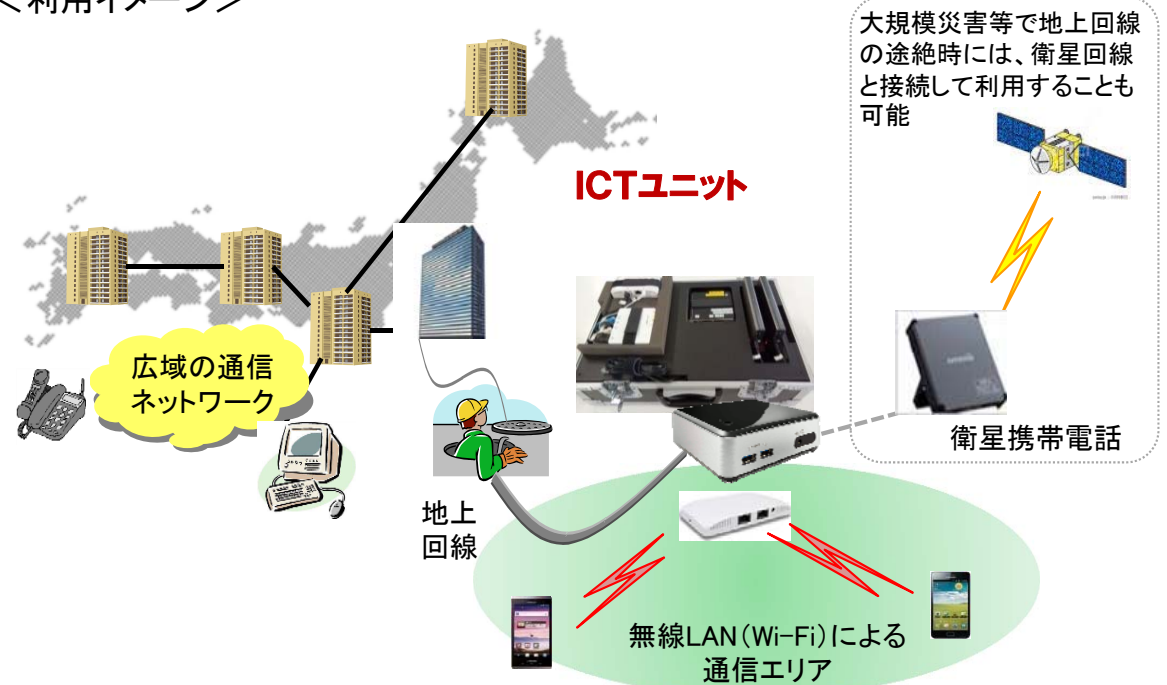


※専用ケースに格納

**重量合計:**  
**約7.5kg程度**

その他(衛星携帯電話接続アダプタ、  
HUBスイッチ、ケーブル、小物類等)

## <利用イメージ>



## 【ICTユニットの特徴】

- 1) 普段のスマートフォンやタブレット※)を活用した音声通話とデータ通信を提供(直径約100m範囲)
- 2) 衛星回線・光ファイバ等との接続により、遠隔地との発着信が可能
- 3) アタッシュケースで持ち運び可能。配線等が容易で10分以内に利用開始可能  
梱包のバッテリー1本(22,000mAh)で連続8時間使用可

※) ICTユニットから音声通話用のスマートフォンアプリをダウンロードし、起動することにより、スマートフォンの電話番号をICTユニット内の通信での内線番号として利用可能。

# ICTユニットの利用方法(ネットワーク構成例)



## 外線利用

## 内線利用

避難所、庁舎、拠点病院等

ひかり電話オフィスA(エース)ルータ  
(オプション)

光ファイバ

アナログ電話

アナログ電話用  
VoIPゲートウェイ



衛星携帯電話  
(オプション)

スイッチ

ユニット本体

Wi-Fi  
アクセスポイント

Wi-Fiアクセスポイント拡張  
(オプション)

L2-SW (PoE)

AP  
廊下など

バッテリー

バッテリー

電源線

USB給電

LAN

スマートフォン



PC

ファイル共有



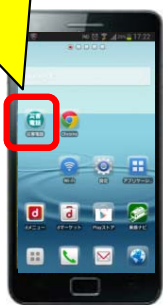
PC

# ICTユニットの利用方法(端末操作)

## 通話機能

## ファイル共有機能

1. アプリ一覧からアイコンをタップ



①Wi-Fi自動接続

2. 自動で接続や必要な設定等を実施(①~③)

③SIP phone接続自動設定



3. ステータスバーにアイコンが表示されれば  
普段の発信操作で通話可能



Android端末



②端末番号、自動登録



ICTユニットのファイル共有サーバにアクセスすることでデータの共有が可能(接続する全ての端末と共有可能)



Wi-Fi  
アクセス  
ポイント

通話



i-phoneにも対応  
(アプリ「AGEphone」を使用)

【Windows  
パソコン】  
追加ソフト不要



データ共有



【Android端末】  
ファイル管理用のアプリが必要  
(例:「ES File Explorer」等)